

『上田に学び、上田メソッド*をつくる』

地域の方々によって創設された長野大学は、
地域貢献の先駆的の大学として地域学の研究と教育に取り組んできました。

2017 (平成 29) 年度から上田市の公立大学となり、
より一層地域貢献できる学びの体系として、
初年度から 4 年次まで地域課題の解決に取り組む地域協働型教育を推進しています。

21 世紀社会は、市民・企業や行政を含む組織等が主体で活動・協働しつつ、
学生時代を含む次世代と一緒にあって創り出していくものです。

長野大学は学生が“地域で”、あるいは“地域と”実践的に地域課題と向き合う学び、
地域の皆様と協働する学びを実践します。

全国どこの地域においても求められる
地域課題解決の方法論「上田メソッド」をつくり、
上田から全国に広げていくことを目指します。

上田メソッド*

- ①地域が丸ごとキャンパスとなり、学生の主体的・自発的な興味関心に基づき、学びのテーマを創造する。
- ②地域の課題解決での学生と地域の多様な主体との協働活動をとおして、生きた社会を学ぶ。
- ③地域の課題解決に求められる知識や技術を学生が主体的・複合的に獲得し、アイデアを創発する。



2022 年度事業概要「信州上田学推進事業」4年目の取り組み

2019 年から上田市と長野大学で連携して「信州上田学事業」を推進してきました。

4 年目となる 2022 年度は、「**上田市との協働事業**」と「**長野大学独自事業**」の2つの事業を推進しました。

前年度から引き続き、いずれも地域の課題解決や魅力を発見する取り組みとなりました。

上田市との協働事業



① 情報発信・共有事業 ・デジタルアーカイブ化公開 P3
・リーフレット作成

② 地域パートナー連携事業 1 記録集「若者たちへの伝言」 P4
2 「棚田生物 Hint Cards」 P4
3 パンフ「武石の生活季節暦」 P5
4 タウン誌「てくてくうえだ」 P5

③ 上田に学ぶ学生の活動支援事業 ・長大学生サミット P6

④ みんなでつくる信州上田学事業 ・学びの成果発表会 P6

長野大学独自事業



① 講義「信州上田学」
「信州上田学 A」(前期開講) P7

② 地域協働活動(変則開講 5月~12月)
(信州上田学発展科目)
「梔子ワイナリーを盛り上げよう」
「塩田平・日本遺産活用企画」 P7

信州上田学デジタルコモンズ
(信州上田学の情報共有サイト) P3



HP 更新
信州上田学 2022 年度の取り組み



プレスリリース・メディア取材
(事業内容・成果物)



信州上田学事業に関するお問い合わせ先：長野大学地域づくり総合センター (renkei@nagano.ac.jp)

みんなで作る信州上田デジタルマップ

【画面イメージ】



2020年度に創設
2023年3月現在：5,000件を
超える投稿数
誰でも自由に閲覧・投稿可能
講義「信州上田学 A」の学習支援
ツールとしても活用しました

<https://d-commons.net/uedagaku/>



使い方紹介

誰でも自由にご利用できます。



*デジタルアーカイブ

ネットから地域を
探検しましょう。

自由にサイトを閲覧・検索
(ユーザー登録不要)

投稿者の記事を見て、
自分でも記事を
投稿してみたら

新規ユーザー登録
(ニックネームでの投稿が可能です)



マイサイトに写真や動画を
投稿してみましょう。

学習の成果を蓄積・地域学習のツールとして活用しましょう

上田市との協働事業 ① 情報発信・共有事業
地域資料のデジタルアーカイブ公開

監修：企業情報学部 前川道博教授
協力：地域資料展示保管機関・
地域の方々
作成：2021年1月
公開：2023年3月

2021年度の取り組みで作成した「地域資料のデジタルアーカイブ」を2022年度に公開しました。
公開の範囲は関係機関と調整を行い、許諾が得られたデータについて公開しました。

①「塩尻小デジタル資料館」

塩尻小学校郷土資料館に保管・展示されている蚕種製造・養蚕・製糸に関連する、道具・文書等所蔵品のアーカイブ制作



「塩尻小デジタル資料館」概要



生糸見本



②「上田自由大学デジタル資料館」

上田自由大学の主宰者の一人 山越脩蔵氏の所蔵資料が長野大学に寄贈されました。寄贈された「上田自由大学」に関する資料のデジタルアーカイブ化



「上田自由大学デジタル資料館」概要



「土田杏村とその時代」外観



③「神川小デジタル資料館」（山本鼎の部屋アーカイブ）

神川小学校 山本鼎先生の部屋に保管された「山本鼎」に関する資料をデジタルアーカイブ化



「山本鼎の部屋アーカイブ」概要



山本鼎先生の部屋



④「藤本蚕業デジタル資料館」

日本の蚕種製造業を知るための貴重な資料、藤本蚕業歴史館に関する資料をデジタルアーカイブ化。



「藤本蚕業デジタル資料館」概要



藤本善右衛門 縄葛の「続錦雑誌」





監修：社会福祉学部 山浦和彦教授
 取材：長野大学 山浦ゼミ
 協力：上田市教育委員会、塩田まちづくり協議会、
 信濃毎日新聞、ヤマンバの会
 発行：2023年1月

太平洋戦争時における日常生活の体験・エピソードを学生が聞き取りや忘れられつつ戦争遺跡を調査して記録集にまとめました。

次世代を担う若い世代に語り継ぎ、平和の尊さを発信します。

現在、当時を知る方々の高齢化が進み、直接お話を聞くことが困難となってきたなか喫緊に取り組む必要のある課題と言えます。

記録集を活用した平和活動（語り継ぐ活動）に取り組んでいます。

「英語は敵国のことば」だから

基本データ
 ● 渡辺三樹子さん（94歳）
 住所 / 上田市津野在住
 ● 聞き取り日 / 2022年6月3日
 ● 録音当時の仕事等 / 青木小学校の先生
 ● キーワード / 自由

Q 終戦当時はどこで何をされていましたか？
 A 青木村で小学校の先生をされていました。上田県立高校専攻科を卒業した。当時は教師が足りなかったから高校卒業してすぐに教員免許なしで教師になる人が多かった。渡辺さんその1人。同校を卒業した友人の多くは名古屋の工場へ行った。授業の他にも多岐にわたる活動も行った。

Q 当時、悲しかったことや喜ぶことがあったか？
 A 英語が学べなかったこと。当時の松谷丘陵の制敵はとも可もなく気に入っていた。しかし、非常時にすでに身動きがとれず、制敵ではなくもくもくとこなす。私生活でもスカートではなくもくもくと履かなくてはならなかった。他にも洋服はお見合いのお客

Q 当時のどのような生活を送っていましたか？（飲食）
 A もんべ

Q 当時の先生をされていたときのエピソード
 A 校庭の中央にある台の上で、渡辺さん自身が子ども達に「右向け右！ 英をつけ！」など軍隊のような号令をかける訓練も行ってた。

Q 今でも忘れられないのが、終戦当日（8月15日）に連絡してきた大勢のアメリカ兵が校庭から学校を見ていたこと、どうして見たのかは分からない。

Q 制敵を履きたりスカートを履くことができなかったこと
 A 当時の松谷丘陵の制敵はとも可もなく気に入っていた。しかし、非常時にすでに身動きがとれず、制敵ではなくもくもくとこなす。私生活でもスカートではなくもくもくと履かなくてはならなかった。他にも洋服はお見合いのお客



記録集『若者たちへの伝言』を読む



記録集を活用した学生たちの取り組み



監修：環境ツーリズム学部 満尾世志人 准教授
 作成：長野大学 満尾ゼミ
 協力：稲倉の棚田保全委員会、稲倉自然研究会
 イラスト：豊殿小学校児童
 発行：2023年2月

稲倉地区における棚田生態系の持続可能な管理・利活用のため、棚田生物を用いた環境学習ツール「棚田生物ヒントカード」を作成しました。

作成したカードを活用した環境学習イベントを支援し、里山や棚田環境に関する普及啓発の推進、棚田の価値・魅力・現状を伝えることを目標とします。

～ヒントカードの遊び方の例～

ヒントから、棚田の生き物を推理してあてよう。

- ① 出題者を決めよう。
- ② 出題者は、ひとつずつヒントを出そう。
- ③ 回答者は、答えが分かっていても、まだ言わないで。
- ④ 出題者は、最後までヒントを出しましょう。
- ⑤ 回答者は、最後までヒントを聞いてわかったら、せーので、一緒に生き物の名前を答えよう。

答えのわからない人がいたら、新しいヒントを考えて出してみよう。
 この他にも、色んな遊び方を考えてみよう。

【トンビ】

- ① 私は、二本足で歩きます。
- ② 私は、こげ茶と白のまだら模様をしています。
- ③ 私は、人の7倍ほど目が良いです。
- ④ 私は、上昇気流を使って空を飛びます。
- ⑤ 私は、死んだ動物やカエル、魚、残飯を食べます。
- ⑥ 私の羽は、広げると1.5mほどあります。
- ⑦ 私の天敵はカラスです。
- ⑧ 私は、○○○がタカを産むということわざになっています。
- ⑨ 私は、「ピーヒョロロ」という声で鳴きます。

令和4年度 豊殿小 1はん

Hint Cards について



上田市との協働事業 ② 地域パートナー連携事業 3
パンフレット作成「武石の生活季節暦」

監修：環境ツーリズム学部 松下重雄 教授
制作：長野大学 松下ゼミ
協力：たけしロマンの会
武石観光協会
発行：2023年2月



武石地域自治センターにてワークショップ

上田武石地域の活性化を目指す地域住民のグループと長野大学の学生たちが協働して、武石地域の生活資源を発掘し、地域で共有する取り組みです。

ワークショップ形式で、整理された情報をデザイン化して、地域の季節ごとの生活環境の特徴を取り纏めた「武石の生活季節暦（フェノロジー・カレンダー）」づくりを行いました。



パンフレット作成「武石の生活季節暦」を見る



上田市との協働事業 ② 地域パートナー連携事業 4
タウン誌作成『てくてくうえだ』（信州上田学特別号）

監修：企業情報学部 鈴木誠 教授
取材：長野大学 鈴木ゼミ
協力：サントミュージゼ、上田映劇、上田信用金庫、
柳町屋 [Co・LABO SHOP]、古着屋DADA
発行：2023年1月



『てくてくうえだ』は、「上田で働く人を通して上田の魅力を探る」が、コンセプトです。上田にある企業の経営者やそこで働く労働者を通して上田の魅力を探る、上田の魅力を発信するSDGs11（住み続けられるまちづくり）にも貢献する取り組みです。

学生が地域の方へインタビューを通して得た知見を自らの職業観養成につなげ、上田地域の経済の活性化を促すと同時に、町おこしや地域の課題発見・問題解決を目指します。

てくてくうえだ 目次

- 03 上田駅前グルメマップ
長生が選ぶ店はコレ！厳選10店
- 07 サントミュージゼ
芸術とふれあい、心育てる
- 13 上田映劇
歴史を紡いできた居場所に込める想い
- 19 上田信用金庫
近近感を大切に！上田の未来を創る
- 25 柳町屋[Co・LABO SHOP]
和菓子や店主 一家に一台DIY人間
- 31 古着屋DADA
自分のやりたいことを、楽しむ。



読者アンケート
皆様のご意見・ご感想お待ちしております。

コンセプト決めから、取材先選定、インタビューの実施、記事や誌面作成、編集・校正まで学生たちが行いました。



5つの班に分かれて取材。
班リーダーが集まって、リーダー会議。

タウン誌『てくてくうえだ（信州上田学特別号）』を読む



上田市との協働事業 ③ 上田に学ぶ学生の活動支援事業
長大学生サミット

地域で活動している学生たち（個人・団体・サークルなど）の発表会「長大学生サミット」開催を支援しました。

地域で活動する学生たちに取り組みを発表する場を提供するとともに、学生たちの取り組みを地域に発信・共有します。

2022年11月30日（水）オンラインにて開催。
後日長野大学 HP に公開しました。



地域をフィールドでの活動を発表
MIZUMATCH 赤羽さん



上田市海野町商店街の魅力を伝える
前川ゼミ足立さん



上田市との協働事業 ④ みんなでつくる信州上田学事業
学びの成果発表会

2022年度の活動内容について、各取り組みから報告発表を行いました。

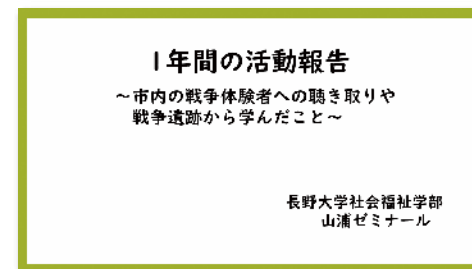
成果発表会は、コロナ禍で発表の場が減ってしまった学生たちに発表の場を提供するとともに、学生たちの取り組みを地域に発信・共有します。

上田市長をお招きして、各取り組みから担当教員・学生たちが活動の報告を行いました。

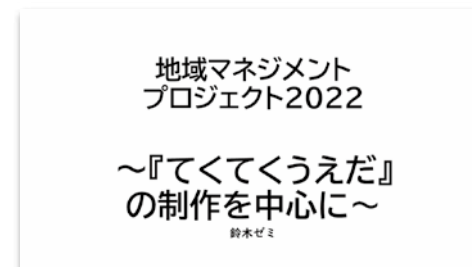
2023年2月11日（土）オンラインにて開催。
後日長野大学 HP に公開しました。



記録集作成について報告
山浦ゼミ 岡田さん



タウン誌作成プロジェクトを報告
鈴木ゼミ 岡村さん



長大学生サミット・学びの成果発表会の動画は、イベント情報のページからご覧いただけます



後期開講。3 学部から 4 人の教員による授業を展開、それぞれのテーマごと横断的、多面的に地域の資源について考え、地域を活性化するための課題解決などを作成、報告しました。

学びの成果は、キュレーションとして、信州上田デジタルマップに公開・蓄積。



- 第1回 わたしのインタレスト**
(自分の関心から発する、各回の接点からテーマを考える。それ以外のテーマでもよい)
- 第2回～4回 蚕都を未来に活かす** (企業情報学部 前川道博 教授)
- 第5回～6回 民生委員制度と小河滋次郎** (社会福祉学部 宮本秀樹 教授)
- 第7回～9回 塩田平の魅力と活性化** (環境ツーリズム学部 古田睦美 教授)
- 第10回～13回 デザイン・農民美術** (企業情報学部 石川義宗 教授)
- 第14回～15回 地域キュレーションまとめと発表**

キュレーション型学習とは…



**本当に面白い学びで
「地域学」にチャレンジしよう!**

*キュレーションとはインターネット上の情報を収集しまとめること。または収集した情報を選別、編集することで新しい価値を持たせて公開・共有すること。「Curator (学芸員)」がその語源といわれています。

開講期間は、5月～12月の変則開講

本学の協働パートナー(本学と連携協定を締結する地域の企業、NPO、行政等)が提示する地域課題の解決をめざした実践的な活動に取り組んでいます。

①「梔子ワイナリーを盛り上げよう！」



地域協働パートナー：メルシャン梔子ワイナリー
環境ツーリズム学部 松下重雄 教授



目的：梔子ワイナリーの活性化

授業の概要

- セラドア研修、ぶどう畑での作業、醸造体験、季節ごとに開催される梔子マルシェへの参加とイベント企画
 - ワイナリー店舗でのインターンシップ
 - ワイナリーの課題や資源の発見、活性化のためのアイデア計画・提案
- 授業プログラムの最後に、梔子マルシェの企画運営報告と活性化アイデア発表会を開催しました。

②「塩田平・日本遺産活用企画」



地域協働パートナー：塩田平ボランティアガイドの会
環境ツーリズム学部 古田睦美 教授

目的：信州上田・塩田平の魅力を多くの人に知ってもらい、地域活性化に結びつける

授業の概要

- 信州上田・塩田平は 2020 年に日本遺産に認定されました。若い世代(小中学生)に日本遺産や、構成文化財について関心を持ってもらうため、「日本遺産上田・塩田平かるた」を活用したイベントを開催(人間かるた追いかけっこゲーム、かるた大会、かるためり絵コンテスト)
- 上田市主催の日本遺産シンポジウムにて発表(2022年12月18日)
- 塩田まちづくり協議会と協働し、日本遺産やレイライン観光コースの作成とガイドの実施、冬至イベント(レイラインハンティング)



長野大学「信州上田学」の取り組みは、本学の「長野大学 VISION」や「中期計画」に掲げられています。

上田市政においても、「上田の魅力を知り、ともに地域を築く体験を通して若者定着へと繋げる信州上田学の推進」が位置づけられました。

これにより、本学は上田市の公立大学として、学園都市上田の中核を担い、地域の多様な主体との連携をとおして、地域貢献していくことを目指しています。

本学では、信州上田学を推進する地域のパートナー（地域団体、企業、人材）を求めています。

長野大学地域づくり総合センターは、その連携をコーディネートします。

公立大学法人

長野大学 地域づくり総合センター



〒386-1298 長野県上田市下之郷 658-1 (9号館1階 附属図書館内)

TEL : 0268-39-0007

E-mail : renkei@nagano.ac.jp

長野大学の HP



長野大学 VISION

